

会員のひろば

「ありがとう」



徳永敏子
(祝園五反畑)

阪神大震災に遭い、永年住み慣れた西宮を後に精華町に住まいを移してきました。なんと素晴らしい所でしょう。自然の中で夫婦揃って畑仕事に打ち込める日々感謝しています。平凡に過ごしていた中、シルバー人材センターを紹介して頂き、入会致しました。子育て支援事業の協力員がまさに募集されていて私は「合唱」でお世話になることとしました。特別歌声が良いとかではなく、大きな声で子供たちと楽しく歌をうたえたらとぼんやり考えていました。出番は思いもかけないくらい早くやってきました。春休みの学童施設に伺い、琴の演奏をするという恥ずかしい限りの出番でした。何年かぶりに自分の子育ての頃を思い出しながら明るく元気いっぱいの子供達の姿に恥ずかしさなど吹っ飛んでいきました。あつという間の楽しい時間を過ごすことが出来、すっかり子育て支援事業のとりこになりました。久しぶりに緊張でドキドキしました。

子供たちの目は生き生きと輝いています。今後はどんな歌を歌おうか。ボランティアでの経験を生かし、メンバーの方と相談しながら子供達の満面の笑顔を今から楽しみにしています。

残された人生の最後にこんな素晴らしい事をさせていただけるシルバー人材センターの会員の仲間入りが出来ました事に心から”ありがとう”。さあ～、夏休みが待ち遠しいわ。

「ふるさと案内人」になって



中井正治
(下狛市場)

シルバー人材センターの「ふるさと案内人」養成講座に参加させて頂いてから本年4月3日「ふるさと発見・春の旅」と題し、初めての催しが実施出来ました、これから更に内容も含め充実を図り、数多くの皆様に利用して頂くように工夫を重ねたいと思っております。

私は、サラリーマンを定年退職するまで、会社との往復で明け暮れていたのですが、シルバー人材センターの会員になって感じたことは、自分の居住してる所の歴史・文化？と考えた時、その地名、下狛(狛の字から渡来系住民との関係が?)僧坊(文字通り僧侶さん達の坊が?)滝の鼻(地形を見る限り滝は無い?)祝園(祝いの園とはどの様な園か?)等何か歴史的に謂れが在りそうに思われ興味が湧きました。精華町は奈良・京都に隣接し一方では木津川が流れ、昔は物資の運搬手段として重要な役割を果たしていたと思われ、また反面、木津から大きく九十度流れが京都方面に曲っており、護岸対策が不備の昔は水害による災害も多かったと、色んな環境の中で生活を営んでいた古人達の歴史・文化等が想像されます。今世紀現在京阪奈丘陵を中心に、次世代の文化を担うだろう学術学研都市としての役目を担うべく諸施設が建設され私達「ふるさと」の誇りとなることと思います。考えて見ますと、昔は最新技術を持った渡来人達が居住し、その技術で都建設に寄与、今世紀は最先端技術の魁として存在し現精華町の今昔に興味を感じます。今後所々点として顔を見せる史跡や文献・民話・風習等を線として繋げ、「わがふるさと」と言う物語作りに参加させていただき古代・中世・近世・現代・未来への橋渡しのお手伝いが出来れば幸せです。そしてこの物語を、より多くの人人に紹介し、少しでも多くの人と出逢い新たなる発見と、感動を体験して残りの人生をエンジョイしたいと思っております。今後ともヨロシクお願い致します。